



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

「油断することなく、引き続き感染予防の徹底を」～緊急事態宣言解除とワクチン接種の進捗状況～

10都道府県に発令されていた緊急事態宣言が、沖縄県を除く9都道府県で解除され、兵庫県を含む7都道府県は、まん延防止等重点措置に移行しました。兵庫県では、緊急事態宣言解除後の県内の感染症対策として、まん延防止等重点措置区域とその他の区域に分けた対策の概要が発表されました。淡路島は、重点措置区域外となりましたが、措置区域よりも緩和されているとはいえ、飲食店の営業時間短縮および酒類提供の制限に関する要請は継続しています。

淡路島内の感染者数に目を向けると、4月25日の緊急事態宣言発出以降、新規感染者の発生は低く抑えられています。6月20日時点で、1カ月近くその数が0となっていることは、市民の皆さま方のご尽力による結果です。心から感謝申し上げます。

また、本市の高齢者へのワクチン接種は、6月16日時点で1回目の接種率が全対象高齢者の7割を超え、県下の市ではトップとなるなど、順調に進んでおり、6月16日から2回目の接種に入っています。接種にあたって、南あわじ市医師会の全面的なご協力をいただいていますことに心から感謝申し上げます。「受付から接種までとてもスムーズだった」と接種を終えた方からの褒めの言葉もいただきました。携わる職員も日々改善を重ねて

いますが、接種会場に来られる市民の皆さまの会場運営へのご協力に併せて感謝申し上げます。

一方で、64歳以下のワクチン接種については、菅首相が11月中には接種を完了させると国会で表明されました。6月に行われた全国知事会でも、高齢者以外のワクチン接種を加速させる旨の提言が国に対してなされ、職域接種に向けた取り組みも島内で行われています。本市でも、市医師会・歯科医師会との協議を重ね、国の動きを注視しつつ、迅速な接種に向けた準備を進めてまいります。

コロナ禍により長引く行動制限は、社会活動を低下させ、地域経済にも大きな影響を与えています。本市では、緊急総合対策の一つとして、南あわじ市商工会のご尽力、参加商店街の皆さまのご協力により7月1日から「プレミアム付商品券」を販売します。さらに、キャッシュレス決済によるポイント還元事業なども予定していますので、市民の皆さまには、市内経済活性化のためにも積極的なご利用をお願いします。また、公民館など市の施設をご利用いただき、さまざまな活動の再開にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

解除された緊急事態宣言、まん延防止等重点措置区域から淡路島は外れ、ワクチン接種も順調に進捗しているなどにより、安堵する気持ちもあると思います。しかし、ワクチンの効果は万全ではありませんし、感染力が強いとされる変異株の流行にも警戒が必要です。感染拡大の「第5波」は何としても防がなければなりません。市民の皆さまにおかれましては、引き続き、感染予防にご理解、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

感染症対策にご協力をお願いします

- ・3密を避ける
- ・マスクの着用
- ・手指の消毒
- ・不要不急の外出を避ける
- ・室内や移動の車内などでは換気を十分に行う

抜いた後は、先生が草刈りで葉を短く切ってくれたものをコンテナへ入れて乾燥させるという作業を行いました。今年のタマネギはソフトボールほどの大きさで、ひとコンテナがとても重く、学生たちも運んだり積み上げたりするのが大変そうでした。

コロナ禍で大変な時期ではありますが、農作物は順調に育っています。これからは夏野菜の収穫、田植えに始まり、冬野菜の準備や収穫が待っているの、学生たちは実習や農作物の実りを心待ちにしています。

同大南あわじ志知キャンパス事務室 ☎ 42-4700



タマネギの収穫を行いました

キャンパスの農場では学生の教育・研究の一環として、さまざまな野菜を栽培しています。1年生の授業である「フィールド実習」では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在は1クラスを2つに分けて実習をしています。

今回は昨年度の冬に植えたタマネギの収穫を行いました。学生たちにとっては初めての経験で、先生の指示のもと、実際にタマネギを手で抜く体験をしました。



高齢者叙勲 旭日単光章

岡本 年男 さん (後)

岡本さんは、平成元年7月、地域住民から推されて西淡町議会議員に当選し、平成13年7月までの3期12年の長きにわたり在職されました。西淡町議会議長をはじめ、環境整備調査特別委員会委員長、議会運営委員長等を歴任し、生活基盤の充実や教育、文化、福祉の向上など、町政発展に貢献されました。特に、三原郡4町合併や「陸の港西淡」の整備に尽力されました。



守本市長に目録を手渡した淡路地区郵便局長会会員

淡路地区郵便局長会から 車いすの寄贈

淡路地区郵便局長会から、南あわじ市に車いす5台を寄贈いただきました。同会からは、コロナ禍で困っている市民のために何かできることはないかとの申し出がありました。車いすは、新型コロナウイルスワクチンの集団接種会場で体の不自由な人の介助に活用しています。



地域おこし協力隊の委嘱状を受け取った高杉さん

地域おこし協力隊に高杉さん 「おいしい野菜を多くの人に」

南あわじ市の地域おこし協力隊に、福井県出身の高杉千春さんが新たに就任しました。今後、農作物の少量多品目栽培や地産地消の推進などに取り組みます。地域おこし協力隊は、意欲ある人材が都市部などから地方へ移住して、地域の活性化などに協力する制度。高杉さんは人材サービス会社の元社員で、イベン

ト運営やウェブサイトの制作など、就職活動をしている人への情報発信に携わっていました。以前から農業に興味があり、「定年後より、まだ動けるうちに行動したい」と考え、直近に住んでいた大阪に近く、温暖な気候の南あわじ市の協力隊募集に応募しました。守本市長から委嘱状を受け取った高杉さんは「おいしい淡路島の野菜を、より多くの人に食べてもらえるように活動したい」と抱負を語りました。



協定書に調印した南あわじ警察署の山根署長(左)と三原自動車教習所の宮本社長

安全・安心なまちづくりへ 南あわじ警察署と教習所が協定

南あわじ警察署と三原自動車教習所(賀集)は6月8日、犯罪や交通事故の抑止、事件発生時の早期解決を目的に「安全で安心なまちづくりのための活動に関する協定書調印式」を開催しました。協定により、同教習所は犯罪や交通事故を目撃した際の通報や、犯罪捜査に必要なドライブレコーダーの映

像の提供など、日常の業務の中で、まちの安全・安心の確保のために警察署との連携を強化します。同日に同警察署で行われた協定書調印式には、山根典靖署長と同教習所の宮本慶太社長が出席。宮本社長は「連携をより密にできるように尽力したい」と話しました。